

## 仙台市博物館協議会会議録

1. 会議の年月日 令和7年5月27日(火)

2. 開会及び閉会の時刻 午後3時00分から午後4時40分まで

3. 出席委員の氏名(五十音順・敬称略)

鹿又喜隆、籠橋俊光、佐治ゆかり、佐藤琴、佐藤淑子、高橋たくみ、伊達泰宗、長岡龍作、七海雅人、若生彩

4. 説明者の職及び氏名

教育長(冒頭のみ出席)=天野元、館長=渡邊忍、副館長=樋口智之、庶務係長=久慈裕子、学芸企画室長=酒井昌一郎、指導主事=永山達郎、学芸企画室主任=小田嶋なつみ、学芸企画室総括主任・記録=佐々木徹

5. 議題並びに議事の要旨

(1)会議録署名委員の選任

会長と佐治委員とする。

(2)報告事項

①令和6年度事業報告

i 展示・公開(学芸企画室長報告)

「資料1」のとおり。

ii 教育・普及事業(指導主事報告)

「資料2」のとおり。

②企画展「新収蔵品展 2017-2024」の結果について(学芸企画室長報告)

「資料3」のとおり。

③令和6~7年度の観覧者数について(庶務係長報告)

「資料4」のとおり。

④特別展「伊達を継ぐものー仙台藩を巣立った殿様たち」の進捗について(学芸企画室長報告)

「資料5」のとおり

⑤特別展「徳川十五代将軍展～国宝・久能山東照宮の名宝～」の進捗について(学芸企画室長報告)

「資料6」のとおり

[委員からの意見]

新収蔵品展ポスターの色使いについて、黄色・赤色ともスーパーの安売り広告のようで品がなく、首を傾げる。背景が黒であるのも目立ちにくい。掲載資料のレイアウトも、床置きすべきものなど資料の性質を踏まえるべき。

[事務局からの回答]

資料の掲載方法については、資料の品格を損なつたり、資料の性質について誤解されることのないよう配慮しているが、なお注意していきたい。また、印刷物に使用する色は、こどもや若者といった博物館に馴染みが少ない層にも分かりやすく情報を示す意図から、目に入りやすい色を選択していた。

[委員からの質問]

「展覧会予定」の印刷物で、刀剣のうち太刀が刃を上にして掲載され、薙刀もそうなっている。太刀は刃を下にするべきもので、薙刀も別の博物館では刃を下にしていた。いずれも本来は逆ではないか。また、そうしないのならば一言説明が必要ではないか。

[事務局からの回答]

太刀は現在打刀柄が付属しており、刃紋が見えやすいこともあって展示の向きに合わせて刀のように刃を上にして掲載した。今後は説明書きを加えるようにしたい。薙刀は、刀のように近世とそれ以前で表裏が変わっていることもあるが、厚みと重量があることから刃に負担がかからないよう刃を上にして展示している。

[委員からの質問]

観覧者数は、リニューアル後に増加したあとは横ばいとなっている。例年 4 月・5 月は増えるのか、あるいは昨年度はリニューアルしたから増えていたのか。

[事務局からの回答]

特別展・企画展の開催期間か、常設展のみの開催期間であるかで違いがある。令和 6 年度は 5 月まで企画展を開催し、6 月は常設展のみ開催していた。また、4 月 1 週目は来館者がやや少ないようである。

[委員からの意見]

紙媒体での広報よりも、日曜美術館のような番組やデジタル媒体での広報を重視すると、情報を得る側としても手間が少ない。より工夫してもらいたい。

[委員からの質問]

「伊達を継ぐもの」・「徳川十五代將軍展」は内容が関連しており1回限りとならない広報手段をとることができないか。また、江戸時代が注目されている世の中の動きとも関連させて宣伝できると良い。

[事務局からの回答]

いずれも次回展覧会予告として発信しているが、主催団体の違いによって住み分けながら広報を行う面もある。両展覧会の広報をちょうど同時期に行うこととなった事情はあるが、博物館が対応できる部分では関連付けて広報していきたい。

[委員からの意見]

館内・館外で講師を行う際に「伊達を継ぐもの」の展覧会や仙台と宇和島との関係を発信できると良い。

[事務局からの回答]

学校向けの機会に宇和島との関係について話すことができる。個別に学校とも情報を共有している。

[委員からの意見]

刈谷と佐野に注目した展示自体に大きな意義があり、19世紀までをフォローして紹介することも大切と感じる。

[委員からの意見]

「伊達を継ぐもの」・「徳川十五代將軍展」での図録作成予定はあるか。重要な展覧会の記録を、図録の形で残し、来館者に持ち帰ってもらうことが大事である。

[事務局からの回答]

資料で抜けてしまっていたが、「伊達を継ぐもの」は作成中である。「徳川十五代將軍展」は、展覧会オリジナルの図録を作成しないが、久能山東照宮の名品図録を販売する予定。

[委員からの意見]

今回報告のあった2つの特別展が並ぶと、仙台市博物館は武家の文化・世界観を対象とする展覧会しか開催しない印象となり、今年度の展覧会はテーマに偏りがある。また、「伊達を継ぐもの」では仙台・宇和島両市のつながりがテーマとして強調されるが、体感としては文化や風土の面で全く異なるものを感じる。それらを比較して提示する視点も加えてもらいたい。現行のテーマには、生きている人たちへの眼差しがあまり感じられず、若干違和感があった。共通点だけではなく、相違点も含め全体的に捉えて示す事業構成があつて良い。

[委員からの意見]

東北と四国の両市が同じであるわけではなく、違いも感じられる良い。近世以前の文化的土壤の違いから近世文化の花開く様子が異なるように、歴史的なスパンを長く捉えて紹介すると良いとも感じた。

[事務局からの回答]

宇和島藩に関しては海路の参勤交代についても紹介するが、人々の暮らしや感覚面まで踏み込んだ構成にはできていない。様々な違いがあるため、家がつながりながらも各地での根付き方が違う点はお伝えしたい。

[委員からの質問]

旧藩主であった各家の当主は展覧会に招待するのか。姉妹都市提携50周年記念の展覧会であり、どうしても宇和島と仙台の関係が強調されてしまうが、まだ調整の余地があるように思う。

[事務局からの回答]

イベント等の機会に各家・各藩の紹介を予定しているが、なお工夫し各藩の基本的な部分には触れていきたい。

[委員からの意見]

博物館見学の学生からは、具足や刀剣を多く見たいとの意見があり、久能山東照宮の展示に期待している。すでに神社発行の充実した図録があり、若い方の関心がある分野であるので、若い方に届く広報をしてもらいたい。資料にある講座以外の関連イベントもあると良い。

[委員からの意見]

SNSで取り上げられやすい事業・展示とする必要。

[委員からの意見]

展示室内に撮影スポットが導入されることも多い。拡散される重要なポイントであり、検討していただきたい。

[事務局からの回答]

若い方に届きやすい企画としていきたい。展覧会では公式 X を開設しており、撮影スポットの設置についても何らかの形で対応したい。

[委員からの意見]

若者はどちらかというと Tiktok や Instagram のような写真・映像を多く見ており、届きやすいように思われる。考慮してもらいたい。

[委員からの質問]

他館のテレビ CM が多い印象だが、2つの特別展ではテレビ CM を予定しているか。また、後援の媒体各社に CM をしてもらえると良いと思う。

[事務局からの回答]

主催者が自社媒体を持っていると宣伝を行いやすい傾向である。共催者とも連携して広報を実施できればと考えるが、後援各社には、できるだけ展覧会を取材していただく形でお願いしたいと考えている。

[委員からの意見]

印刷物は、CM のような主催者間の住み分けが必要ないため活用しやすい媒体であるが、仙台市博物館の印刷物は、若干古典的なデザインが多い。もう少し斬新なデザインの印刷物に踏み出すことがあって良いが、契約方法はどのようにしているのか。テーマは古くとも新しいビジュアルにすることは可能であり、費用がかかる方法もあればかからない方法があるので、本気で取り組んでみてはどうか。

[事務局からの回答]

契約方法はデザインを条件とする入札であり、予定価格内で最も低額である会社の落札となる。以前には大学のデザイン研究室へ依頼したこともあるが、引き続き方法を探っていきたい。

[委員からの意見]

展覧会の広報印刷物は、安さだけで対応可能であるとは言えない分野である。作成する仕組みを抜本的に考えた方が良い。広報にかけた予算が展覧会の来場者数に直結するという経験をよく聞くので、たいへん重要である。

[委員からの意見]

仙台以外の来館者も多く訪れる博物館であり、展覧会をきっかけとして仙台市をよく知ることができ、街歩きを促す作戦があると良い。学校教員向けのミュージアムセミナーでは、熱意をもって児童さんに見どころ、楽しみどころを伝えるきっかけになり、とても良い取り組みである。

[事務局からの回答]

「伊達を継ぐもの」では会場内でのウォークラリーのようなイベントを企画しているので、さらに館外へつながりが出るよう企画を練りたい。

(3) 協議事項

①令和7年度事業計画

i 展示・公開(学芸企画室長説明)

「資料7」のとおり。

ii 教育・普及事業(指導主事説明)

「資料8」のとおり。

[委員からの意見]

年間計画が展示だけとなっており、調査研究活動や保存修復のような活動が記載されていない。伊達家寄贈文化財の具足で熊皮を使用しているものは、毛が抜けた状態で展示されていた。修復を計画するべきではないか。

[事務局からの回答]

該当の具足は過去に修理を行っており、裂地などは一部交換しているが皮の部分は現状保存とした。

[委員からの意見]

現状保存が必ずしも正しいという訳ではなく、一般の方には事情が分からない。この状態から将来的に修理を行うことを説明すべきである。瑞鳳殿出土の太刀拵えは、修理によって現在の形で見やすく展示できるようになった。

[事務局からの回答]

直近では水玉模様陣羽織を修理し、その後公開した。

[委員からの意見]

著作権への配慮は必要になると思うが、既刊の仙台市博物館調査研究報告をpdf化してリポジトリ公開することを検討してもらいたい。学術的な発信をホームページ等で見ることができると良い。

[事務局からの回答]

過去に刊行している号は各著者に責任が所在する部分や掲載手続きなど大変な面があるが、今後刊行する号についてはこれから検討が可能。

[委員からの意見]

東北大学の刊行物は図書館で電子公開している。国会図書館との事業連携のような方法もあるのではないか。

[委員からの意見]

年間の事業計画・報告とも、資料の収集・保存、調査研究も含めた形で全体として報告されると良い。いずれも館の活動として重要。

[委員からの意見]

デジタルデータベース公開は、普及事業というよりも研究成果公開という面が強いため、もし協議会で成果を報告する場合は、そのような分野で示してもらいたい。また、博物館の業務全体を協議会に諮るとしても、pdfで公開されている年報のような分量の資料がこの場で提示されると大変になるので、あくまで要点をしぼって提示してもらいたい。

[委員からの意見]

Yahooに展覧会案内のページがあり、使いやすい。東京では入場制限や予約必要の有無を確認することが多い。仙台市博物館でも掲載を検討すると良い。

[委員からの意見]

アートスケープもある。

[事務局からの回答]

展覧会ごとに広報していただいたことはある。

[委員からの意見]

仙台の人が宇和島に親しみをもてるような展覧会になると良い。また、仙台を観光で訪れる方が瑞鳳殿と仙台城本丸跡へ行く際の間をつなぐ形で、博物館でも伊達政宗について必ず見ることができるものがあつて良い。

[委員からの意見]

出口にあるアンケートの回収箱は、もっとしっかりとものを設置するべき。またアンケートで寄せられた内容に応する対応を発信できると良い。

## 6. その他

(1) 次回開催日程について(副館長報告)

「資料7」のとおり。